

学校経営の基本的な考え方		総合自己評価	総合学校関係者評価
<p>【1】スクールミッション(目指す学校像) ○「人ありて技術」を教育理念とし、先進技術を含めた高い専門力を身に付けさせ、心身ともに健全で調和のとれた人間性を目指す学校 ○ 多様な選択科目が設定された教育課程により、国公立大学を含めた進学や、専門性を活かした就職が可能なハイブリッドな工業教育を目指す学校 ○ 広い視野を持ち、本県や日本、国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材の育成を目指す学校</p> <p>【2】グラデュエーション・ポリシー(目指す生徒像) 「人ありて技術」の教育理念の基、情報技術をベースとした専門高校として、豊かな心・確かな学力・専門的な知識・技能の向上に努め、将来を担うスペシャリストの育成、地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を目指します。 ○ 主体的に考え行動し、自己教育力をもつ生徒 ○ 仲間と協力し、健康で心豊かな生徒 ○ 豊かな感性を持ち、文化や技術を創り出す生徒</p>		3.2	3.4

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント
1	生徒の人間力育成・学力向上	1 基本的な生活習慣の確立 ・あいさつ・時間厳守・校内清掃の専心・健康・安全第一	○生徒の健康・安全面については、保健主事・養護教諭を中心に、全職員が関わって迅速に対応できている。 ○校内美化の取組みは概ね良好である。個人のゴミ持帰り運動、ゴミの分別活動、清掃用具の管理等を生徒会美化委員会と協力し取組みを進めた。 ○各学期の終業日に、美化委員を中心とした校外美化ボランティア活動を実施した。 ○交通立番指導を場所・時間を分けて行った。職員から協力を募って行った。 ○情報モラル啓発運動を生徒会主催で定期的に行った。 ●部活動における事故防止については、部顧問不在の場合における練習等について指導した。 ●個人のゴミ管理が徹底できていない部分が若干みられるが、美化委員の取組で徹底できつつある。 ●校内の美化、緑化活動は事務部の協力が必須である。 ●SNSの利用の仕方については、継続した課題であるが、情報モラルに関する問題行動は減ってきている。 ●交通立番指導は、通学時の事故防止のために継続したいが、時間外勤務でもあり、今後の課題である。	3.0	3.1	3.4 ○挨拶は、こちらから声をかけるとほぼ100%返してくれます。声をかけなくても、自ら大きな声であいさつしてくれる生徒も多い。 ○部外者への挨拶について高校生にふさわしい態度で非常に好感がもてました。 ●久峰団地の坂道を猛スピードで下る自転車が数台見かけます。大変危険です。 ○●生徒が安心して学べる環境は、学校の魅力アップにもつながると思います。先生方には、引き続き生徒の健康、安全面の確保に取り組んでいただきたいと思ひます。 ○●ゴミの持ち帰りなどの校内美化への取組は、循環型社会の形成に向けた大切な取組だと思います。一方、持ち帰れないゴミもあると思ひますので、校内外での不法投棄につながらないよう、一定の配慮をお願いしたいと思ひます。 ○●個人のゴミ管理については、日頃からの継続的な指導が不可欠と考えます。 ○●学校での働き方改革が進む中、交通立番指導など勤務時間外の取組が難しくなっているといった報道を目にします。保護者や地域住民などの理解や支援を求めながら、生徒の安全を守る方法を考えていかなければならないと思ひます。 ○●生徒にとってSNSは、既に生活の一部になっていると感じます。生徒間の暴力動画がSNSを通じて拡散されるといった報道がなされており、SNSとの向き合い方について、生徒一人ひとりを守るためにも継続的な取組が必要だと思ひます。 ○●相手の立場になって、物事を考えられるのは社会人となっても大事なことでありますので継続的にご指導をお願いします。 ○自主的な生徒会運営・活動等に良好な成果が見られ評価できると思ひます。
		2 思いやりの心、望ましい人間関係の醸成 ・HR 活動の充実(自立・協力を意識した場の仕掛け)・学校行事の工夫(生徒主体による企画・運営、学科別集会等)・特別支援学校との交流活動	●○一部に他者への配慮に欠ける言動が友人を傷つける場面や、美化意識の欠如から教室環境に課題が見られた。継続的に、また学科とも連携し指導する中で言動に落ち着きが見られるようになった。 ○生徒総会は各委員会で生徒会中心に行った。生徒会が、自分たちの公約をもとに提案を行った。その他学校行事はできるだけ生徒主体に企画・運営をするよう指導し、概ね良好な状態である。 ○年間3回の各学科別集会を設定し、学科の帰属意識高揚を図った。 ○ものづくりを通じた地域貢献を目的に、県立みやざき中央支援学校や近隣の保育施設と連携して課題研究を実施した。生徒たちが製作した「ひらがな文字学習練習キット」やボール投げて遊ぶ「ストラックアウト」を贈呈予定である	3.2		
		3 授業の積極的参加 ・授業改善・適正な評価及びフィードバック	○学期1回実施する授業アンケートにおいて、授業アンケートと同時に生徒の学習への振り返りを実施した。 ○テストまでの10日間(テスト期間を含める)に生徒の自立学習調査を行い、目標設定とその振り返りをおこなった。自ら立てた目標に対して約4割の生徒が満足した学習をすることができている。満足出来ていない生徒も次のテストに反省を活かそうという振り返りができていた。 ●対外模試の結果を活かし、生徒の学習への意欲喚起と学力向上につながるような取組をしていきたい。	3.2		

4 資格・検定取得、コンクール等の積極的参加
・課外指導・さくじらタイムの充実・広報活動による推進

【電子機械科】

- 全国情報教育コンテストに2グループがエントリーした。
- 技能検定3級(「機械検査」・「普通旋盤」・「電気系保全」)に18名が受験し、14名が合格した。
- ジュニアマイスター顕彰制度のゴールドを3名が取得した。

【情報技術科】

- 基本情報技術者試験に23名、セキュリティマネジメントに5名合格した。
- 高難度の情報安全確保支援士に1名が合格。(全国で高校生は3名、県内では社会人含んで3名のみ。)
- ジュニアマイスター顕彰制度の、ゴールドを1名、シルバーを1名が取得した。
- JR九州とコラボして日南線電車運行状況確認アプリの開発を行った。成果を工業技術発表会生徒発表部門で発表し、優勝した。

【通信工学科】

- 1年:第二級陸上特殊無線技士・情報技術検定3級、2年:第二種電気工事士・工事担任者(第2級デジタル通信)を全員受験した。
- 資格試験はCBT方式での受験が可能になり、部活動の大会や学校行事を避ける形で受験ができるようになった。また、生徒の習熟度に応じての受験もできるようになった。
- CBT方式のデメリットとして、受験日の自由度があるため、受験日や可否結果の把握が難しくなった。
- 資格検定の受験対策として、SKTと授業内容に配慮して指導を実施した。

【産業デザイン科】

- 各種ポスターコンクール等での例年にも増して上位入賞があり、充実した取り組みができた。夏休みだけでなく、年間を通して公募へチャレンジするよう促し、生徒の主体性の伸長を図っていきたい。

【主な受賞歴等】

- ・WE LOVE トンボ絵画コンクール/文部科学大臣賞
- ・全国学芸サイエンスコンクール/金賞
- ・愛鳥週間用ポスター原画コンクール/日本鳥類保護連盟会長賞
- ・全国地域安全運動ポスター/最優秀賞

3.2

- 資格・検定取得等においては、本当に積極的に地域などにも貢献してくれています。難しい資格にも挑戦するだけでなく、合格するなど素晴らしいです。
- 資格・検定取得やコンクールなどでの取得や受賞は、それぞれのステップアップにつながると思いますので、生徒の皆さんには、資格取得などにどんどん挑戦して欲しいと思っています。
- 一般の方でも役立つアプリを使用してみたいです。ありがとうございます。
- 企業とのコラボの取り組み、専門知識を高めて、資格を習得、様々な大会に出場&受賞など、生徒が専門性を高め、発揮する機会を与えられており更なる学習意欲向上アップと成果を出されています。
- 各種資格・検定への先生・生徒の積極的な取り組みが結果に表れており非常に評価できるものです。

<p>5 部活動の充実 ・自治活動によるリーダーの育成(キャプテン会・部活動生集会)</p>	<p>【生徒指導】 ○部活動紹介を全学年対象に体育館で行った。全校生徒の部活動理解につながった。 ●部活動に係わる集会をあまり開くことができなかった。生徒の自主性をさらに促せるようにしていきたい。 全国大会規模の主な実績 ・テニス部 全国高校総体出場 ・ウエイトリフティング部 全国高校総体出場 ・ラグビー部 全国優勝した九州選抜チームや西日本選抜チームに選出された2名が活躍した。 ・エコカー部 2025エコデンレースくまもと…単3 充電池レース 優勝 …鉛バッテリーレース 優勝 2025エコデンレース全国大会…優勝 2025 Ene-I SUZUKA Challenge KV-40 …高校生3位入賞(総合6位/125台中)、4位入賞(総合9位/125台中) ・電子機械技術部 全国ロボット競技大会(福島大会)に出場 ・情報技術部 日本学生科学賞入選I等受賞、大阪万博内で行われたデジタル学園祭出場、情報オリンピックや気象観測コンテスト等に参加し、敢闘賞を受賞した。全国情報教育コンテストで QWS 賞を受賞し、東京の MIXI 本社の招きでアプリ開発の指導を受けた。コンテスト入賞を受け、気象文化財団の招きで東京大学研修を実施した。防災アプリ(SHS 災害.info)が9月、10月7000件を超えるダウンロードであった。 ・通信技術部 ジャパンマイコンカーラリー2026全国大会 Basicクラス ベスト8</p>	3.2	<p>○部活動にも目を見張るものがあり、特にテニスは全国大会で優秀な成績であるとともに他の部活動も追随されることを期待します。 ○エコカー部や情報技術部の全国大会などでの活躍は、専門高校の特色が生かされていると感じます。スポーツ部を含め、ますますの活躍を期待しています。 ○文武両道で、素晴らしい結果を出されています。</p> <p>○●読書には、ものづくりに必要な能力を伸ばす効果があるといわれていますので、生徒たちのモチベーションを高めるのは大変だと思いますが、継続して取り組んでもらいたいです。</p>
<p>6 読書活動の充実 ・朝の10分間読書、図書委員会の活性化</p>	<p>○副担任の協力のもと、朝の読書を滞りなく実施できた。 ○1年を通して、定期的に企画展示を行うことができた。 ○文化祭のボードゲーム大会や企画展示、図書便りなど、図書委員主体の活動に取り組んだ。 ●4月～12月の「一人あたり平均貸出冊数」は3.4冊で、0.3冊減であった。更に広報活動充実に努めたい。</p>	3.0	
<p>7 家庭との密な連携</p>	<p>○各行事の保護者への案内について、classi アプリを使い、連絡を徹底することができた。</p>	3.0	

番号	重点目標	達成手段	○:成果と ●:課題	自己評定	学校関係者 評定	学校関係者コメント
----	------	------	------------	------	-------------	-----------

2	教師の指導力・専門性向上	1 授業力向上 ・自己研鑽・授業参観期間の相互参観・生徒による授業評価の活用・ICT教育の充実・研修会への積極的参加・南九州工業高校連絡協議会(南工連)による情報交換会・安全教育	<p>○学期1回は授業アンケートを実施し、授業に関して生徒からフィードバックをもらい、授業改善に努めた。</p> <p>○熊本工業高校で開催された南工連では、県外工業高校と進路指導の情報交換ができ、今後の繋がりをつくることができた。2年目の開催で南工連のネットワークグループができ、日常的に情報交換ができる環境が構築できた。</p> <p>○工業部会主催の安全教育研修に各学科1名(4名)参加し工業教育者として企業の安全教育を直接学んだ。</p> <p>○工業部会電気系分科会主催の職員研修会に4名参加し、九州電力株式会社 宮崎支店および柏田変電所において変電・配電・制御に関わる施設設備の見学を行った。</p> <p>○半導体産業理解のための工場見学ツアーに職員1名が、宮崎大学での講演会(副学長 淡野教授)およびラピスセミコンダクタ株式会社宮崎第二工場(国富町)の見学に参加した。</p> <p>○令和7年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択(全国1191校、県内16校)され、生徒の学習環境の整備をおこなった。次年度も継続申請中予定である。</p> <p>●10月~11月に授業参観期間を予定していたが、学校行事が錯綜し、実施できなかった。</p> <p>●進路マップを1,2年生は年3回、3年生は年1回行っているが、その結果を活かし学力向上に繋げていくことが課題である。</p>	3.2	3.2	3.3	<p>○授業参観ができなかったことは残念に思いますが、重点目標全体を通して、生徒ファーストの下、専門高校の特色が生きるよう、先生方が工夫しながら、様々な取組に積極的に尽力されていることが伝わってきました。</p> <p>○●習熟度の違いなど難しい場面もあるかと思いますが、先生方には生徒の基礎技術習得に向けて、これからも御尽力くださるようお願いいたします。</p> <p>○他校との連携・情報共有にも積極的に取り組まれており今後も継続されるようお願いいたします。</p>
		2 生徒理解力の向上 ・日常における教師間のOJT・外部講師による校内研修会の設置	<p>○SC(スクールカウンセラー)による本校の事例に基づく職員研修を行い、「合理的配慮」について、一定の理解を得ることができた。</p> <p>○対応が必要な生徒に関し教科担任会などの会議を開催した。</p>	3.2	3.2		<p>○不登校生徒に対する、SC・SSW等の体制が積極的に活用されており今後も家庭・家族と連携を通じて問題解決に図っていただきたいと思っております。</p>
		3 生徒の悩みの早期発見、迅速対応 ・日常の声掛け、観察・情報共有・いじめアンケート・LHR活用(人権教育)・特別支援教育(通級指導)	<p>○正副担任による生徒全員を対象とした教育相談を毎学期実施し、日常的にも教育相談部と保健体育部との連携を密に行うことで問題の早期発見に努めた。</p> <p>○毎月開催のカウンセリング委員会、学期毎の全職員対象の生徒状況報告によって情報の共有を図った。</p> <p>○県の「不登校等支援強化事業」で配置されたSC(スクールカウンセラー)制度及びSSW(スクールソーシャルワーカー)の拠点校として毎週勤務する体制が整ったため、問題を抱えた生徒への柔軟な対応が可能となり一定の問題解決を図ることが出来た。</p> <p>○「通級による指導」は、3年生1名、2年生1名、1年生2名で加える教育課程で行っている。周りの適切な配慮等もあり比較的落ち着いた高校生活を送っており、実施時数は少なく済んでいる。</p> <p>●通級指導が望ましい生徒が増加傾向にある。</p> <p>●生徒本人だけでなく家庭・家族に関して問題を抱える事例もあり、対応が困難な場合もあった。</p>	3.2	3.2		<p>○●通級教室があるのは中学校までかと思っていました。通級教室が望ましい生徒が増えているという課題が心配です。学校だけの問題ではないことも多いようですので、様々な機関と連携することが大事ですね。</p>
		4 キャリア教育及びものづくり教育の推進 ・進路面談等手厚い指導、進路手引き等の活用・大学、企業等との連携	<p>○生徒の進路に対する意識を向上を目的に、2年生に企業見学を実施予定。</p> <p>○「なりたい自分に向けた経験の振り返り」というテーマで、オープンキャンパス、インターンシップなどの振り返りと、進路の手引き(キャリアプランニング)やクロームブックを活用して進路情報を収集・整理し発表した。(2年生)</p> <p>○6月に本校の卒業生を招き、全校生徒に向けて進路選択や進んだ企業・学校について講話をしてもらった。</p> <p>○進路手引き(キャリアプランニング)を作成し、進路指導に活用した。</p> <p>○7月に大学等33校、企業23社に来ていただき、進路ガイダンスを実施した。</p> <p>○8月に3年生Ⅱ類の生徒を対象としたポスターセッションを行い、キャリア教育支援センターをはじめ外部の方に来ていただいた。</p> <p>○7月~9月に各クラス面談を実施し、10月には生徒の適性に合った類型の選択をおこなった。</p> <p>○県外企業を知ることや、就職後のミスマッチを防ぐことを目的に、県外企業説明会を3月実施予定である。</p> <p>○学科横断的なスキルが必要で普段目にする機会の少ない業種の仕事内容を知るために、業界研究会の名目で企業を招聘し機械・通信・情報の生徒に向けた説明会を実施した。</p> <p>○クライアントワークを積極的に取り入れることで、生徒達の自己有用感と職業観が育ってきている。</p> <p>○夏期に校外で美大・芸大進学説明会の機会を設けると共に、校内でも別途、武蔵野美術大学と連携し生徒・保護者向けに美大進学ガイダンスを実施できた。</p> <p>●クライアントワークは、内容を精査しながら生徒・教師ともに負担になりすぎないように、引き続き調整する必要がある。</p> <p>●Classi(「学校の授業・指導」「生徒の学習」のための、先生・生徒・保護者がつながるICTプラットフォーム)に行事毎の振り返りを蓄積しているが、その蓄積をさらに生徒のキャリア学習に活かしていきたい。</p>	3.0	3.0		<p>○生徒の学習意欲にもつながる良い取り組み</p> <p>・キャリアプランを描くのは、個人では難しい生徒もいると思われます。将来を見据えて何をすべきかを指導をされている。</p> <p>・OBからの実体験を聞くのは、参考になりますので、定期的に開催されるとよろしいかと思われます。</p>

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント	
3	特色・魅力ある学校づくり	1 進学も就職もできるハイブリッドな専門高校 ・個々の生徒に対する細やかな、組織による指導(トコトン面倒を見る)	○進路手引き(キャリアプランニング)を作成し、進路指導に活用した。 ○7月～9月の各クラス面談を実施し、10月には生徒の適性に合った類型の選択をおこなった。 ○積極的に企業や大学を訪問することで進路指導に活かすことができている。 ●Classiに行事毎の振り返りを蓄積しているが、その蓄積を生徒のキャリア学習に活かしていきたい。 ●産業デザイン科の専門性を生かした就職先が少ないため、さらなる企業開拓が必要である。 【進路】 ○12月現在で23名の4年制国公立大学合格を得た。 ○91.6%が就職第一希望内定であった。 ○公務員6名内定(鹿児島県地方公務局1名・宮崎県庁1名・高鍋町役場1名・宮崎県警3名)であった。 ○面接・小論・教科など個々の生徒に対応した個別指導を全職員で行い、多くの合格や内定を得る事ができた。 ○就職では学園生(高専生)を持つ企業を受験した生徒は、全員合格することができた。	3.2	3.2	3.5 ○●ハイブリッドな工業教育のためにも、生徒にとって振り返りは大切なことだと思いますし、学びに対する意欲も変わってくると思います。先生方には御苦労も多いとは思いますが、人間性豊かな産業人材へと育てて欲しいと思っています。 ○就職ではほぼ第一希望に内定が決まっていることや公務員・大学進学もよい実績が出ているようで素晴らしい。 ○●進学も就職も、生徒それぞれの希望が叶うことを希望しています。特に就職については、3年以内に3人にひとりが離職している状況にあるようですので、生徒の皆さんには、様々な情報の中から自身のスキルが存分に発揮できる企業選びを行って欲しいと思います。 ○●専門高校として7割を超える就職率と大学進学率、特に国立大学への合格も含めハイブリッドな高校にふさわしいと思います。できれば、県内の就職率の向上にさらにつながればと思います。	
		2 ミックスホームルーム(1年)・他学科生徒との交流による視野の広い人材の育成	○学科を超えた人間関係を形成することで、高校生活の土台となる部分を育成しつつ、多様な個性に刺激を受けて成長しようとする姿勢を養うことができた。 ○●専門的分野の学習に対する不安や、進路に関する問題意識に対応できるよう、学科との連携が不可欠である。学年団の職員を中心に、目配りや声かけをしていただいた。	3.0	3.0		
		3 地域とともにある専門高校・地域(各種団体・小中学校)との積極的関わり・社会貢献	○無人駅の多い JR 日南線において、電車の位置情報を確認できるアプリ「JR にちなび」を情報技術科と産業デザイン科の課題研究で開発した。 ○ものづくりを通じた地域貢献を目的に、県立みやざき中央支援学校や近隣の保育施設と連携し、課題研究を実施した。生徒たちが製作した「ひらがな文字学習練習キット」や「ストラックアウトゲーム機」を贈呈した。 ○科学の祭典 2025、テクノフェアでペットボトルキャップからキーホルダー作り体験のワークショップを行った。 ○ひなたサイエンスフェスにて、電子機械技術部がロボット操作体験、ミニカー製作ワークショップをエコカー部がエコカー乗車体験を行った。 ○ひろきた元気フェスタにて、電子機械科が電車(さくら号)乗車体験を産業デザイン科が絵画の展示を行う予定である。 ○地域のイベントのポスターやチラシなどの制作協力を行った。 ○工業部として、全学科で佐土原総合文化祭等でワークショップを実施した。 ○継続的に行ってきた地域への貢献活動等が浸透し、イベントのポスターデザイン等の制作協力やワークショップへの出展をはじめ、取り組みがいのあるクライアントワークの相談があり、充実した取り組みができた。 【実践事例】JA みやざきファーマーズマーケット「ひなたマルシェ」ロゴマーク採用、JR 日南線アプリ(情報技術科と連携/デザイン…産業デザイン科)ほか ●内容を精査しながら、生徒、教師ともに負担になりすぎないように調整する必要がある。 ●オンラインやオンデマンド型の講義は参加しやすいが、日時や会場が平日の校外の場合、参加や送迎が難しく、出席が難しい生徒がいた。	3.2	3.2		○まさに地域と一緒にイベントを盛り上げてくれていることに感謝します。 ○地域でのイベント参加について、ご協力ありがとうございます。たいへん助かっております。 ○地域貢献活動が対外的にも評価が高く、マスコミにも取り上げられており貢献度の高いものだと思います。 ○学科の専門性を発揮し、地域貢献にすることで学生のモチベーションアップにも繋がり、素晴らしい取り組みです。 ○他学科生徒の交流について他の学校の状況がわかりませんが、成長段階において刺激を受けることが必要と思います。 ○地域に根差す高校として、地域貢献活動・各種イベントへの積極的参加により一層のPRに期待しております。 ○地域貢献活動などを通じて、生徒一人ひとりに自立・協調の心が育っていくことを期待しています。
		4 地域の素材・人材の積極的活用 ・大学、企業、県工業技術センター、県、市町村等	○県の職業能力開発協会からものづくりマイスターを招聘した。生徒は国家資格(技能検定)の筆記および実技の指導を受けた。 ○県の事業のICT体感塾に応募し、地元企業からVRやメタバースなど最新技術について講義を受けた。	3.0	3.0		○先輩たちが積み上げてきた実績などを含めて、専門高校としての魅力、強みが地域に浸透しているなあと感じています。「生徒、教師ともに負担になりすぎないように調整」とありますが、取組を継続するためにも、また学校での働き方改革の観点からも、そうあるべきだと思っています。

5	グローバルな人材育成 ・東勢工業高級中等学校(台湾)、安山工業高校(韓国)との交流活動推進(短期留学費:同窓会より一部補助)	<p>○5月に木柵工業高校(台北市・台湾)の22名が来校し、本校の授業体験と校内施設見学を行った。また、昨年度からの交流校である羅東高級工業職業学校(台湾羅東市)の運動系部活動生と教職員・保護者58名が6月に来校し、本校部活動生と交流を行った。</p> <p>○9月に韓国の姉妹校である、安山工業高校の生徒・職員約26名が来校し、本校生徒は国境を越えた交流を大いに楽しんだ。</p> <p>○12月に姉妹校の東勢高級中学校の生徒2名が来日し、本校で体験入学を行った。</p> <p>○今年度合計3名の生徒が短期海外留学をした(県の事業利用3名:台湾・タイ)。</p> <p>○全国工業高等学校長協会主催の海外研修(タイ王国)に7月下旬に参加し、タイ及び全国の工業高校生と交流を行った。</p>	3.5	<p>○●学生時代から外国の方と交流できるのは、すばらしい事です。さらに広い世界にも目を向けて欲しいと思っています。もっと予算があると良いですね。</p> <p>○韓国や台湾などの高校生との交流は、生徒たちにとって、異なる言語や文化に直接触れ、関心や興味が広がるとても良い取組だと思います。この取組を継続して行って欲しいと思っています。</p> <p>○●生徒が安心して学べる環境は、学校の魅力アップにもつながると思います。先生方には、引き続き生徒の健康、安全面の確保に取り組んでいただきたいと思っています。</p>
6	高大連携 ・宮崎大学工学部、宮崎公立大学及び九州工業大学との連携強化	<p>○宮崎大学工学部と高大連携(機械系)の一環で、本校生徒1名が宮崎大学で行われた「工業高校生のためのインターンシップー機械系工業高校生のための授業体験ー」に2日間参加した。</p> <p>○DXハイスクール事業で、宮崎大学工学部教授による画像認識の実習体験(情報技術科)を今年も実施した。また、工学部見学(電子機械科・通信工学科)も行った。新しい技術の体験は生徒の知的好奇心の醸成に役立った。</p>	3.5	
7	セーフティプロモーションスクール ・学校安全推進校	<p>○『生活安全』『災害安全』『交通安全』の3領域に関する各種行事を、各校務分掌で計画的に実施した。外部専門機関とも連携を図り、生徒にとってより現実的な取組みとなった。</p> <p>○SPS 認証校として2期目の更新認証を受けた。</p> <p>●SPS 認証に伴い『学校安全コーディネーター』の継続的な養成に努める。</p>	3.2	

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント
4	入学者定員確保	1 学校からの情報の発信 ・体験入学、オープンスクールの充実 ・高校説明会戦略 ・HP、インスタ、Youtube、Xほか	<p>○体験入学には59校、中学生535名、保護者428名の参加(昨年65校、529名)。事務作業の簡略化に努め、生徒個票は当日配布した。滞りなく、行事を遂行できた。90%以上の中学生が「満足した」とアンケートで回答した。</p> <p>○オープンキャンパスを中学1,2年生対象に実施した。中学生143名、保護者117名の参加があった。参加者の内訳は1年生20%、2年生40%、3年生40%だった。</p> <p>○PTA 新聞第67号の制作を行い、各学科、部活動などの取り組みを発信することができた。</p> <p>○学校HPの随時更新を行って情報発信に努めた。</p> <p>○佐土原地域自治体「さどわら便り」に佐土原高校からのお知らせを毎号掲載し、本校の活動状況を発信した。</p> <p>○産業デザイン科独自の体験ツアーを企画し、実技指導などを行った。受講者の多くが、本学科受験に繋がっている。</p>	3.3	3.3	<p>○メディアでも佐土原高校が取り上げられることが多く、中学生にも関心が高くなっているのではないのでしょうか。</p> <p>○●部活動だけでなく、遠方から通っている生徒への住居について実態調査を行うなど、近隣から通う生徒と不公平感がないような検討も県には行ってほしいです。</p> <p>○●寄宿舎があったら、もっと遠くの中学生も入学できるのではないかと思います。学校だけでは解決できない問題ですね。</p> <p>○●達成手段欄に「生徒用住宅拡充要請」とありますが、体育部に限らず、入学定員確保の観点からも、遠方からの入学を受け入れる態勢づくりがこれから必要になるのかなと思っています。</p> <p>○●今年度は定員を上回る入学者だったと伺っていますが、これからの高校授業料無償化の影響が気になっています。公立私立関係なく少子化によりどの高校も生徒確保が難しくなっていると思いますが、様々な機会や手段を通じて、学校の魅力を確実に中学生やその保護者へ伝えていくことが大切だと思います。</p> <p>○少子化の中、定員確保のために、工夫をされています。</p> <p>○人口減少に伴う少子化が深刻な問題となっている現在、各学校も定員確保が厳しくなっているところから各種イベントを継続的に実施して佐土原高校のPRをしてさらに広げて欲しいところです。</p>
		2 メディア戦略 ・マスコミの活用	<p>○本校の各取り組みや成果については、年間を通して県教育委員会のホームページに掲載するプレスリリースをはじめ、各メディアや新聞社に対して情報発信を行った。多くの内容が取り上げられ、県民や地域への良き発信となるとともに、学校内でも良い雰囲気醸成につながっている。</p>	3.0		
		3 部活動の強化 ・強化指定部(テニス、ウエイトリフティング)他・生徒用住宅拡充要請	<p>○通学が困難な遠方出身者の部活動生徒用住宅について、市営小牧台住宅に加えて、市営久峰住宅を確保運営している。</p> <p>●部活動生徒用住宅に居住する生徒に対して、地域住民からの大きな苦情やトラブルはなかったが、地域活動の積極的参加や一部食事に関するボランティアの方々へのさらなる配慮を検討中である。</p>	3.2		
		4 学校紹介パンフレット ・学校紹介DVDのリニューアル	<p>○学校紹介DVDも令和7年度用にリニューアルした本校学校紹介DVDは毎年好評である。</p> <p>○学校紹介パンフレットは昨年に引き続き簡略版で、詳細な説明はQRコードからHPを参照するようにした。</p>	3.2		